

9月度議員懇談会

デジタル人材の創造について懇談



9月度議員懇談会を9月2日11時より福井商工会議所ビルにて開催し、69名が参加した。

開会にあたり八木会頭から挨拶が行われた。まず、北陸新幹線の福井開業から5カ月余りが経過した現状について触れ、駅周辺の人出はゴールデンウィーク以降から落ち着きを見せ、開業日の人出と比べると、やや寂しさを感ずるようになったと述べた。駅前の賑わいを起爆剤として、片町や浜町などへ活気を波及させるための協力を改めて呼び掛けた。

北陸新幹線の敦賀以西については、8月末の台風による東海道新幹線の運休の影響を受け、改めて北陸新幹線の災害時の代替機能を強く実感すると



開会の挨拶を行う八木会頭

もに、小浜京都ルートでの延伸に向けて関西地域と密な情報交換をしていきたいと意気込みを語った。

続いて、8月20日に開催された福井県経済界サマースクールについて振り返った。講師にお招きした飯田祐二経済産業事務次官からは、「職業柄全国各地に赴くが、福井はおもしろい。交流する経営者たちからの強いパワーを感ずる」と言ってもらえたと同様、福井の元気を伝えられたことは喜ばしいことだと感想を述べた。

また、8月24日に開催された福井フェニックスまつり民踊大会では、約1000名が踊り手として参加したことや、約6年ぶりとなる商工みこしの復活、参加者懇親会など非常に楽しい思い出となったと述べ、次回以降も、一人でも多くの方に参加してもらい、熱量を上げていきたいとした。

続いて卓話に移り、「デジタル人材創造計画」をテーマに、株式会社jipg. jip取締役創業者の福野泰介氏より講演が行われた。

まず、同社や福野氏のこれまでの活動について触れ、早くからアプリの開発やオープンデータの活用に着目し、鯖江を拠点に国内外で活動を広げることが紹介された。



卓話を行う福野氏

現在は県内の小中学生に向けたプログラミングやデジタル技術・ツールの指導にも注力しており、小中学生向けのこどもロボットコンテストを開催するなど、若い世代からデジタルのおもしろさに触れてもらうことで、デジタル人材の創造を目指した活動を行っていることなどが説明された。

加えて、福野氏は、デジタルの発達で情報面などの都市間格差がなくなった現代、福井の地から技術を発信し、福井を日本のシリコンバレーとしていきたいとの意気込みを語った。その実現に向けて、県内企業にも新たなビジネスで社会の革新を目指すスタートアップの必要性を説いた。